

全国高等学校総合文化祭 「びわこ総文」 美術・工芸部門
生徒実行委員会「第1回生徒育成セミナー」 報告

滋賀県立膳所高等学校 教諭 山崎仁嗣

平成27年夏に滋賀で開催される全国高等学校総合文化祭「びわこ総文」(以下、全国高総文祭)の美術・工芸部門を担う生徒実行委員を育成する「第1回生徒育成セミナー」を、京都造形芸術大学アート・プロデュース学科(以下、ASP学科)より福のり子教授、伊達隆洋准教授、北野諒講師をお招きして開催しました。

滋賀県高等学校文化連盟美術・工芸部門では、年に一度の県大会にあたる、滋賀県高等学校総合文化祭(以下、県高総文祭)において、生徒が互いの作品について「語りあう交流会」を実施してきました。実施を重ねるごとに交流会はひろがりを見せ、昨年は130名が参加するまでになりました。また、交流会実施のための生徒実行委員会を設立し、交流会の内容・交流会通信の発行・当日の進行なども生徒が主体的に考え、運営しています。

「びわこ総文」においても、この「語りあう交流会」の取り組みをより充実したものとして、全国に発信したいと考え、京都造形芸術大学ASP学科と連携しながら、大会の運営を担う生徒の育成を計画しています。これは、交流会のためだけではありません。「びわこ総文」では、あらゆる場面において、生徒の主体的な活動と参画を目指しています。中心となる生徒たちが、他者と協働することの可能性・コミュニケーションの大切さ・作り上げる過程の段取り・その楽しさと苦しみの先にある何かを、発見できるようになるということが、連携のより大きな目標です。

「第1回生徒育成セミナー」は、前半を福先生のレクチャー、後半を伊達先生のACOPという構成で実施しました。福先生には、アートとアート作品の違い、妄想と誤解、「みる」ということ、そしてACOPの概要についてご講話いただきました。福先生の十八番(?)恋愛にたとえたものの見方や考え方、趣味嗜好や文化の多様性のお話は、生徒には大変刺激的でわかりやすかったようです。セミナーの後に福先生に駆け寄り、感想を伝えたり質問をぶつける姿がみられました。

伊達先生によるACOPでは、実際に作品をみながら、生徒たちは思い思いに自分が気付いたことを発言していました。他者の言葉と自分の思考が交わることで、作品のみえ方がどんどん変わっていく初めての体験に圧倒されながら、大いに楽しんでいました。

これまでは、我々教員の断片的な考えや経験をもとに、方法を模索し生徒を育成してきました。今回のセミナーを通し、生徒の中で、確かに今までの経験は根付き、誇りに思っていてくれると感じました。それと同時に、ACOPによる理論と基礎的な実践によって、彼らの中で今までの体験に「ああ、こういうことだったんだ」という裏付けができて、それらがスパークして、何か確かなもの変わったようでした。

生徒たちの様子や感想からは、どうも、我々が想定した以上の速さと深さで、新たな世界に足を踏み入れてしまったように見受けられます。我々の責任は重大です。「びわこ総文」もACOPもあくまでもひとつのキッカケにすぎないのかもしれませんが、これらと高校生が融合すると一体何が起こるのか、計り知れません。

ただ言えるのは、ほんものの、そして、多くの出会いを生徒たちに提供できる貴重な機会が、今、訪れようとしている、ということです。私たちはその仕組みと場を作るために、今後も多くの方々からお力をお借りできればと考えています。

〔「第1回生徒育成セミナー」参加生徒感想：事後アンケートより抜粋〕

- ・なぜ、私はこう感じるのかとか、この人は何を考えてこれを作ったのかとか、自分の個人的な考え方を大事にしつつ、他の人の意見も聞いて、自分の世界をひろげていけたらと思った。
- ・“自分自身が常に鑑賞者でなければならない”この言葉に感動した。今までのアートに対する考えとこれからのアートに対する姿勢について考えさせられた。
- ・身震いする思いだった。日頃部活動で交流の素晴らしさなどについてかんがえていたつもりだったが、今回、福先生のわかりやすい説明でより考えが深まったと思う。
- ・美術は生き物みたいだなあ、と感じた。いろんな作品を見たり、他の人と交流しながら自分の中で自分だけの「美術」を育てていくのだと感じた。
- ・“答えが一つじゃないからこそ、人間は繁栄してきたと”聞いて感動した。アートやコミュニケーションにおいて「異なる意見を持った他者を大切にすること」で、ただひとつの答えを決めてしまうことが他のあらゆる可能性を消してしまうものだったと思った。
- ・「鑑賞」というと、長くてつまらないものと思っていたが、考え方が180°変わりました！小さいころに、ぐちゃぐちゃにしながら楽しんだ「ねんど遊び」を思い出しました！
- ・カラカラ帝の像を45分も見つづけていたのはびっくりでした。あっという間に時間がすぎていって他の人の意見を聞いたり、自分の意見を言ったりする時間は本当に貴重でたのしい時間でした。
- ・美術鑑賞で大事なことは「みる」ことだけでなく、誰かと共有をすることが大切なのだとわかり、見方は一つではないのだと思った。
- ・今回のセミナーを受けて作品は完成された後が大切なのだ言うことを知ることができた。
- ・日々何気なく見ていたものの意味を深く考えることになりそうです。恐るべし！ACOP症候群

